北村山地域における歴史的風景保全の取り組みの評価に関する研究

An Evaluation of the Historical Landscape Conservation Activities in the Kita-murayama Region

温井 亨*
Tohru NUKUI

摘要：本研究の目的は、銀山温泉、上五十沢集落、大石田町中心部の3地区で行われている生活・生業としての歴史的風景保全の取り組みについて、過去6年間の取り組みを抽出し、その前後の風景の変化を比較分析することで、取り組みの違いと風景保全との関係を明らかにすることである。分析の結果、銀山温泉では、温泉組合として取り組んだ家並保存条例により風景保全が概ね成功していること、上五十沢集落では、合意形成のための取り組みは多いが、その間にも高齢化が進み、生活としての風景の消失が懸念されること、大石田町中心部では、住民が中心となる取り組みがなく、歴史的風景をつくっていた建物が急速に失われたことを明らかにした。

1. はじめに

本研究の目的は、山形県北村山地域にある銀山温泉¹⁾、上五十沢集落²⁾³⁾、大石田町中心部⁴⁾の3地区で行われている生活・生業としての歴史的風景の保全活動から、過去6年間（1996～2001年）の取り組みを抽出し、その前後の風景の変化を比較分析することで、取り組みの違いと風景保全との関係を明らかにすることである。ここで「生活・生業の場としての歴史的風景」とは、歴史的営みを通して人間が生活や生業の結果つくりあげた風景であり、現在なお日常生活の舞台となっている風景と定義する⁵⁾。本研究が対象とする農山村地域の場合には、このような風景は奥地の山岳部を除いてほとんど全ての地域があてはまる。したがって、本研究で歴史的風景の保全と言うとき、文化財として特定の地区を保存することではなく、このような地域全体の保全を念頭に置いている。

本研究では、対象とする3地区を以下の理由から選定した。1）調査研究、保全計画の策定、合意形成・検討、施策の実行という4段階の活動が行われていること。2）同じ時期（1996～2001年）の取り組みであること。3）歴史的、文化的、経済的に同じ一つの地域圏に属すること。

本論文で扱う尾花沢市銀山温泉、村山市上五十沢集落、大石田町中心部は北村山地域（山形県内陸部の東根市、村山市、尾花沢市、大石田町の3市1町から成る地域）に属するが、歴史的、文化的、経済的な地域圏としてはさらに限定されて、大石田町で最上川に注ぐ丹生川（銀山川はさらに支流）、臈気川、五十沢川の3支流によって形成される地域圏と捉えることができる。

3地区の特徴を表1にまとめる。まず、地区の立地する地形を見ると、奥羽山地の谷あい、里山に囲まれた谷あい、最上川の河畔となっていて、この地域圏の特徴を、上流から下流までほぼ網羅している。次に、生業から3地区の特徴を見ると、温泉街、山間部の農村、在郷町となっていて、生業についても、この地域の特徴を概ね押さえた選択となっている。ただし、ここには、この地区の代表的な集落類型で、盆地内平野部の稲作を主とした農村集落が含まれていない。歴史的風景保全に取り組んだ集落がなかったため、今回の研究対象として扱うことができなかった。

交通に関して言うと、この地域は、古くは最上川の水運と羽州街道（現在は国道13号）が中央を縦断し、明治34年には奥羽本線（現在は山形新幹線が通る）が開通している。最寄の都市は山形市と新庄市であり、それぞれ1時間、30分の位置にあるが、両都市のための住宅地として宅地開発された所はなく、その意味で農山村地域とみなすことができる。

2. 3地区における取り組み

表2に、1996～2001年の間に行われた3地区における風景保全の取り組みをまとめる。取り組みが1996年以前に遡る場合には、その概要を最初に記し、1996年以降の6年間について年ごとにまとめる。そして、風景保全の成果に影響を与えと考えられる取り組みの違いとして、以下の2つの視点を仮定し、取り組みの分類を行う。

まず、1つ目の視点は、誰が取り組みに関わったかという視点である。参加者としては大きく分けると、地元住民、行政、外部

表－1 3地区の特徴

	銀山温泉	上五十沢集落	大石田町中心部
地形と集落	奥羽山地の谷間、銀山川沿いに形成された温泉街	五十沢川の谷間に形成され、里山に囲まれた集落	最上川中流の村山盆地河畔に形成された在郷町
生業	鉱山(16～19C)として開かれ、廃鉱後は温泉街として現在に至る。温泉旅館、商店(湯治客用食料品→土産物)、住宅(旅館従業員、その他)から成る。	水田もあるが、主として炭焼き、養蚕が歴史的な生業。出稼ぎに出た時代を経て、現在は山形市辺りまでを通勤圏とする兼業農家。高齢者世帯は、年金+自家消費農業。	山形県内陸部最大の河岸で、市が立った(16～19C)。船荷問屋(江戸時代)→地主化(明治)→商店、住宅(戦後)。現在、中心商店街衰退問題。また、江戸時代以来、大工、左官職人も多い。
集落と建築	昭和初期に建てられ、和風に一部洋風も加味した独特の木造3階建て旅館街。	1996年当時で約9割の世帯が茅葺の建物を維持していて、伝統的な農村集落、里山の姿を留める。	最上川と平行にはる本町通り沿いに町家と蔵の町並みが残る。
買物	最寄のスーパーまで、車で20分。	最寄のスーパーまで、車で10分。	最寄のスーパーまで、車で5分。
交通	国道13号まで、車で23分。 山形新幹線大石田駅まで、車で28分。	国道13号まで、車で5分。 山形新幹線大石田駅まで、車で15分。	国道13号まで、車で8分。 山形新幹線大石田駅まで、車で3分。
世帯	40世帯(2001年)。旅館、店には後継者あり。	20世帯(2001年)。著しい高齢化。	約100世帯(2001年)。高齢者世帯も多い。

*東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科

表－2 3地区における風景保全の取り組み

銀山温泉	上五十沢集落	大石田町中心部
<p>1986年施行の「銀山温泉家並保存条例」により、独特の旅館街の保存修復に成功し全国的知名度を得る。外湯の復活を計画。</p> <p>1996・申請建築の審査（旅館1軒、③④⑨、D-3） ・同旅館工事（①、D-2）</p> <p>1997・申請建築の審査（旅館1軒、③④⑨、D-3） 1998・同旅館工事（①、D-2）</p> <p>1999・申請建築の審査（旅館2軒、③④⑨、D-3） ・同旅館工事（①、D-2）</p> <p>2000・山形新幹線新庄延伸により入込み客数増加 ・風景観アドバイザーの指導（③⑤⑦、C-1） ・足湯の視察（③⑦、C-2） ・老朽化した共同浴場（地元用）を撤去し、足湯をつくる。（③④⑤⑦、D-2） ・運輸省委託サショナルトラストによる歴史的宿泊施設による地域活性化調査（⑦、A） ・申請建築の審査（共同浴場、③④⑨、D-3）</p> <p>2001・国内視察研修（③⑦、C-2） ・海外視察研修（③④⑦、C-2） ・共同浴場（観光住民兼用）新築（③④⑦、D-2）</p> <p>合計：①3件、③10（中心的役割7）件、④7件、⑤1件、⑦7（中心的役割7）件、⑨4件 A:1件、C:4件、D:9件</p> <div> <p>凡例－1</p> <p>取り組みに関わった人・組織を下記のように分類する。太字は、その中で実現のために中心的役割を果たした人・組織。</p> <p>①住民（個人として自由な意思で参加） ②住民有志（一般住民を先導、啓蒙する意思を持つ） ③地区・温泉組合・商工会（組織の意を受けた個人参加を含む） ④市町村 ⑤県 ⑥国 ⑦大学教員等の外部からのアドバイザー ⑧学生 ⑨近隣からの応援者（近隣住民、議員、青年会議所など）</p> <p>取り組みの段階を下記のように分類する。</p> <p>A 調査研究・勉強会 B 保全計画策定 C-1 合意形成・検討（話し合い、会合、宴会） C-2 同上（視察旅行） C-3 同上（イベント） C-4 同上（外部の人間との日常的交流） D-1 施策の実行（家屋の維持管理） D-2 同上（改修工事、施設工事） D-3 同上（風景のルール、文化財登録等の規制措置）</p> </div>	<p>1996・東北芸術工科大学の調査（③④⑤⑦⑧⑨、A、B） ・先進地研修旅行（①④⑦⑨、C-2） ・空家を拠点施設に（②④⑦、D-1）</p> <p>1997・拠点施設の雪下ろし（③④⑦⑧⑨、C-3、D-1） ・拠点施設の差茅（②⑦⑧⑨、C-4、D-1） ・「五十沢かやぶきの里景観会議」発足（③④⑤⑦⑨、C-1） ・東北芸術工科大学演習/3年生（①⑦⑧、A） ・茅刈、かじか放流（③④⑦⑧⑨、C-3） ・先進地研修旅行（①④⑦⑨、C-2）</p> <p>1998・拠点施設の維持管理（②⑦⑧、C-4、D-1） ・集落の草刈に学生参加（③⑦⑧、C-4） ・そば栽培（①②⑦⑧、C-4） ・そば打ち（③④⑦⑧⑨、C-3） ・風景に配慮した水路工事（③④⑦⑧⑨、C-3、D-2） ・先進地研修旅行（①④⑤⑦⑨、C-2）</p> <p>1999・拠点施設の維持管理（②⑦⑧、C-4、D-1） ・集落の草刈に学生参加（③⑦⑧、C-4） ・木匠塾夏期合宿（①②⑦⑧、C-4、D-1） ・そば栽培（①②⑦⑧、C-4） ・そば打ち（③④⑦⑧⑨、C-4） ・風景に配慮した水路工事（③④⑦⑧⑨、C-4、D-2） ・先進地研修旅行（①④⑦⑨、C-2）</p> <p>2000・拠点施設の維持管理（②⑦⑧、C-4、D-1） ・木匠塾フォーラムの開催（③④⑤⑦⑧⑨、C-3） ・集落の草刈に学生参加（③⑦⑧、C-4） ・木匠塾夏期合宿（①②⑦⑧、C-4、D-1） ・そば栽培（①②⑦⑧、C-4） ・そば打ち（③④⑦⑧⑨、C-4） ・風景に配慮した水路工事（③④⑦⑧⑨、C-4、D-2） ・伝統的建造物群保存地区の調査を陳情（③④⑦⑨、A） ・先進地研修旅行（①④⑦⑨、C-2）</p> <p>2001・拠点施設の維持管理（②⑦⑧、C-4、D-1） ・集落の草刈に学生参加（③⑦⑧、C-4） ・木匠塾夏期合宿（①②⑦⑧、C-4、D-1、D-2） ・そば栽培（①②⑦⑧、C-4） ・そば打ち（③④⑦⑧⑨、C-4）</p> <p>合計：①13件、②13（中心的役割5）件、③17（中心的役割13）件、④19（中心的役割11）件、⑤4件、⑦36（中心的役割16）件、⑧28（中心的役割2）件、⑨19件 A:2件、B:1件、C:32件、D:14件</p>	<p>1992年、文化庁委嘱で戦前に絶えていた雛祭り行事が研究され、「大石田町本町地区雛祭り保存会」が結成される。「お雛見」の復活。また、地元画家の提案により、最上川特殊堤が「崩蔵」の絵で修景される（1991～6年）。1992年、中心部からの転出者の土地を町で購入、蔵を譲り受ける。1993年、「大石田町本町商店街活性化計画策定事業報告書」が歴史的風景を活かした商店街づくりを提案。1994年には、国に先駆けて町独自の登録文化財制度を設け、中心市街では斉藤茂吉疎開先住宅離れが登録される。</p> <p>1996・町の登録文化財に西光寺仁王門（④、D-3） ・建築学会（文化庁委託）の調査（⑥⑦⑦、A）</p> <p>1997・東北芸術工科大学の調査（①②④⑦⑧⑨、A、B） ・本町通りの拡幅取りやめ（④⑦⑦、B） ・最上川堤防下に親水化歩道整備（⑥、D-2）</p> <p>1998・学生による卒論発表会（①④⑦⑧⑨、C-1） ・まちなみワイワイ会による町並み探索/計3回（①②④⑦⑧⑨、C-1。町所有の蔵で話し合い。）</p> <p>1999・町巡り整備と地域商店街活性化懇談会（③④⑤⑦⑦、C-1。町所有の蔵に於いて。） ・同実行委員会（②④⑤⑦⑦、C-1）</p> <p>2000・木匠塾フォーラムの開催（町所有の蔵前の空地。①②④⑤⑦⑧⑨、C-3） ・木匠塾による鏝絵制作（空店舗となっている店蔵に於いて。①②④⑦⑧⑨、C-4） ・最上川対岸の堤防修景検討委員会（③④⑥⑦⑨、C-1） ・若手落語家による寄席（町所有の蔵に於いて。①③④⑤⑦、C-3。）</p> <p>2001・鏝絵をテーマにした町民大学（町所有の蔵で。①④⑦⑧⑨、C-1）</p> <p>合計：①7件、②5（中心的役割1）件、③3件、④12（中心的役割7）件、⑤4（中心的役割2）件、⑥3（中心的役割1）⑦11（中心的役割6）件、⑧5件、⑨4件 A:2件、B:2件、C:9件、D:2件</p> <div> <p>凡例－2</p> <p>下線付きの記号⑦は、筆者の参加を示す。</p> </div>

からの参加者の3者が考えられるが、本研究では調査結果からさらに細分し、表2の凡例にある計9分類の分析を行った。地元住民をさらに3分類したのは、住民と言っても個人として自由意志で参加する場合と、地区や組合などの組織の一人として義務が伴う参加の場合とでは異なるからである。前者の例としては種々のイベントへの参加があり、その場合家族内の複数参加も観察される。一方、後者の例としては寄合などが挙げられるが、この場合は世帯の代表者のみの参加が通例である。②の「住民有志」という項目は、今回の調査で区長のような立場の人に観察された。組織の長ではあるが組織の合意を受けての取り組みではなく、むしろ組織成員の説得や啓蒙的な役割で取り組む時はこの項目とした。外部からの参加者としては、専門家として風景保全を促進・指導する大学教員等のアドバイザー、専門性は中途だが風景観は住民と異なると考えられる学生を項目として立てた。また、近隣地区から住民、市議会議員、青年会議所の参加があり、これを⑨「近隣からの応援者」として一項目とした。この他に一般には、外部の視点を持つ住民としてのIターン者、遠方からの応援者としてのボランティアなども考えられるが、今回の調査地には認められなかった。

次に、第2の視点として、取り組みの内容をA～Dの4つの進行段階として分析した。そして、Cの「合意形成・検討」、Dの「施策の実行」は、同一進行段階内の内容の違いとしてさらに細分した。C-4の「外部の人間との日常的交流」とは、住民と違う外の視点を持った人間が、一過性のイベントや講演会などと違って、長期間にわたって住民と接する取り組みである。

分類作業は、銀山温泉については温泉組合長へのヒアリングによって、上五十沢集落と大石田町中心部については、表2に示す筆者自身の取り組みへの参加による知見によって行った。

表2の結果を検討する。まず、銀山温泉であるが、ここでは既に1986年に「銀山温泉家並保存条例」という施策を実現し、現在はその運用を続けていて、14件の取り組みのうち9件がD段階の「施策の実行」である。同条例は、新築・増改築時に守るべきルールを定め、建築工事を予定する者はルールに適合しているかどうか審査会の審査を受けることが骨格となっている。ただし、このルールは義務づけられたものではなく、工事に対する補助金の交付基準で強制力はない。過去6年間の取り組みの中心は、同条例に基づく申請建築の審査である。一方、その他に、6年前には計画段階にあった外湯の復活という施策が、国内外の視察を参考に、足湯と共同浴場という形で実現している。C段階4件の取り組みは全て、そのための「検討・合意形成」である。

次に、取り組みに関わった人・組織について見ると、最も中心的な役割を果たしているのは、条例、外湯の双方に関わっている③の「温泉組合」である。銀山温泉では全世帯が温泉組合に加入していて、条例の運用はもちろん、視察研修でもおかみ会で出かけるなど、もっぱら組合としての活動が中心となっている。一方、外湯を復活する取り組みでは、7件全てに県の景観アドバイザーである大学教員が関わり、中心的役割を果たしている。また、④の市が、中心的役割こそないが7件に参加していることは、予算化の必要条件として観察される。

上五十沢集落では、1996年に調査と計画策定を終え、その後

図-1 この6年間の風景の変化(银山温泉)

負担がない。また、この取り組みは表に示すように、1998年の初回はC-3の「イベント」としての性格を、翌年以降はC-4の「定期的な交流」という性格を併せ持っていて、③の住民が⑦⑧の教員学生と共同作業を行っていることに特徴があり、むしろ、C段階の「合意形成」に活動の本旨があるとみなされる。同様の特徴は、空家となった家を教員が借りて学生たちの活動の拠点施設としている家の維持管理、そばの栽培とそば打ち、学生たちが夏休みに木を使った制作活動を行う木匠塾にも見られ、住民と教員学生の交流による合意形成を目指した取り組みが繰り返行われている。1996年の調査によれば、歴史的風景を評価する住民は極めて少なく、茅葺の風景を恥ずかしいと思うという回答が多かったが、風景保全を進めるには、住民の意識が変わることがまず必要である。したがって、そこから、このような交流という取り組みが繰り返されていると考えられる。このほかの取り組みでは、④の市が中心となった活動である「先進地研修旅行」が挙げられるが、これもC段階の「合意形成」のための取り組みである。

これらの取り組みで、住民は①②③のいずれかの形で参加しているが、上五十沢集落で特徴的なのは②の「住民有志」という形である。これは区長、副区長を中心とした人達で、外部の人間の応対をし、一般住民に対しては参加を呼びかける役割を果たしている。ただし、住民の高齢化もあって、呼びかけに応じる人数は少ない。

大石田町中心部では、雛祭りなどの歴史的文化への見直しなどの動きを受けて、1996～1997年に調査と保全計画の策定が行われた。その後は計画を受けてC段階の「合意形成」に移るが、D段階の「施策の実行」には至っていない。策定された保全計画とは別に、1994年から町独自の登録文化財制度を持っているが、登録された建造物は少なく、本研究が扱う中心部の範囲内では2棟のみであり、1996年以降の登録はない。

取り組みの中心となっているのは、④の町、⑤の県、⑥の建設省、⑦の大学教員、⑧の学生などで、①②③の地元住民が全く欠けている。

はそれを如何に実現するかという段階に移り、C段階の「合意形成」の取り組み32件、D段階の「施策の実行」が14件となっている。ただし、内訳を見ると、私権の制限を含むD-3の「風景のルール・文化財」がない。また、D-2の「改善工事」に分類される「風景に配慮した水路工事」は、材料を市が支給し、地元住民と学生が共同で施工するという取り組みであり、地元の経費

3. 取り組み前後での風景の変化

以上の取り組みの前後で風景はどのように変化したか、図1～3に、3地区の風景とその変化を示す。対象地区はいずれも集落部であるので、風景を構成する要素として重要なものは建築と土木構造物である。そこで図では、1996年の時点で、歴史的風景を担っていた建築を「風景資源」として示し、それが変化した場合に「+の変化」と「-の変化」として表した。また、風景資源と見なした建築は用途も示した。一方、土木構造物の場合は、変化したときのみ表した。

図-2 この6年間の風景の変化(上五十沢集落)

本研究が扱う歴史的風景保全は、過去のある時代の風景を凍結保存することを目指すのではなく、生活・生業の場として時代と共に変わり行く「保全」である。そこで「風景資源」とする建築は、昭和30年代くらいまで一般的だった「真壁造り、下見板張り」までの建築を考える。この造りは、江戸時代から続く木造建築の連続的發展の上に成立しているが、これ以降に現れる、1)「モルタル吹き付け、金属板サイディング、あるいは窯業系サイディングの外壁と、しばしば片流れ等の屋根(雪国に多い)の建築」は、素材の点からも、形態の点からも、それ以前の木造建築とは断絶しているからである⁶⁾。したがって、「風景資源」とする建築を以下のように定義する。

2-1) 3地区それぞれに於いて、江戸時代以来の在り方で建てられた民家、社寺、蔵。2-2) 真壁造り、下見板張りで、伝統的な屋根形態を持つ住宅、店舗。2-3) 明治～戦前期に建てられ、文化庁等の調査報告で文化財としての評価を受けた洋風建築、近代和風建築。2-4) 2-1)と2-2)によって形づくられた歴史的風景と調和し、さらにそれを引き立てる公共建築、現代建築。

次に、「+の変化」を以下のように定義する。a-1) 高度経済成長期以後に改変を受けていた風景資源としての建築に、当初の姿を取り戻す修復。a-2) 2-4)に該当する新築、増改築。a-3) 2-1)と2-2)によって形づくられた歴史的風景と調和し、さらにそれを引き立てる土木構造物の建設。

また、「-の変化」は以下のように定義する。b-1) 風景資源の取り壊し、部分的取り壊し、改変による風景資源としての在り方の減失。b-2) 新築、増改築による上記1)の建築の新たな出現。b-3) 2-1)と2-2)によって形づくられた歴史的風景と不調和な公共建築、現代建築。b-4) 歴史的風景を構成していた土木構造物の取り壊し、改変による歴史的風景の減失。

図1～3では、以上の記載に加えて、生活・生業の場としての観点から、世帯が転出(死亡も含める)した住宅、逆に転入して人が住むようになった住宅を示した。店舗についても、廃業した店と、新たに開店した店を示した。

図-3 この6年間の風景の変化(大石田町中心部)

始めに、図1の銀山温泉における風景の変化を見る。銀山温泉では旅館4棟に、共同浴場、車庫各1棟の建築工事と、足湯の工事が行われた。このうち「+の変化」と評価されるのは、旅館2棟に共同浴場と足湯、「-の変化」と評価されるのは旅館1棟と車庫であり、残りの旅館1棟は内装のみの工事で風景には影響しない。図から分かるように、白銀橋の南側に並ぶ旅館、店舗の多くは、既に1996年以前に補助金の交付を受けて修復されている。一方、転出した世帯は7軒あり、そのうち5軒は住宅、2軒が店舗である。空家化しないで新たな住まい手の付いた所は3軒ある。廃業した店は3軒、新たに開店した店は2軒である。旅館にはこのような出入りは1つも見られない。

次に、図2の上五十沢集落を見ると、「+の変化」は住民と学生施工による水路工事、道路工事だけである。一方、市、県による公共工事は、2件とも「-の変化」という結果になっている。建築については、茅葺の付属屋が1棟取り壊し、茅葺にトタンをかけた家が4棟となっている。新たに世帯が転入してきた例はなく、転出して空家となった家が1軒ある。ただし、冬は子供たちの家に身を寄せるようになった家が2軒ある。

最後に、図3の大石田町中心部を見る。まず、「+の変化」として、河川改修の公共工事と銀行の建替の2件がある。一方、「-の変化」では、取り壊された風景資源が5棟、部分的改変によるものが2棟、新建材による新築が4棟ある。土木構造物では、5年前に工事の始まっていた都市計画道路が、中心部を縦断する本町通りに接続されている。一方、これも都市計画決定されている本町通りの拡幅については、保留として考え直す趣旨の発言が助役よりなされた⁷⁾。また、建設省により、最上川特殊堤下で水と触れ合える遊歩道工事が行われた。転出入では、住人が入れ替わった所が1軒ある。また、店舗の廃業が1軒、開店が2軒あった。

4. まとめ

3地区の取り組みと、6年間の風景の変化との関係を検討する。

まず、銀山温泉では、風景に変化を与えた6件の工事のうち、旅館3棟と共同浴場の工事が家並保存条例による助成金を受けている。車庫と足湯が条例の適用を受けていないのは、両者が条例の対象外だからである。したがって、条例の対象となる工事の全てが条例を利用したことになる。条例の適用を受けた工事では、「+の変化」が3件、「-の変化」が1件で、概ね条例が機能することで風景の保全が図られていると考えられるが、機能しなかった場合もあることが分かる。また、条例の対象外の工事があり、そこでは+-両方の場合

がある。国内外の視察など、C段階の「合意形成と検討」を重ねて実現した外湯は、2件とも成功している。

上五十沢集落では、林道脇水路の連続落差工化、流雪溝工事以外に大きな風景の変化はない。これらは共に「-の変化」であるが、風景保全の取り組み以前から計画が進んでいた公共工事であるので、取り組みとの関係は論じられない。上五十沢集落の特徴は、C段階の「合意形成」の取り組みが多いことであり、それに合わせて集落内の水路工事などが行われ、小さな変化ではあるが「+の変化」がもたらされた。しかし一方で、茅葺き屋根にトタンをかけるなどの「-の変化」も起きている。これは高齢化により雪下ろしが困難になったためである。合意形成が成就しないうちに高齢化が進みつつあり、近い将来、住民の減少により集落が消滅することが住民のあいだで心配されている。

大石田町中心部では、住民による建築工事で「+の変化」に結びついたものが1つも無い。逆に11棟もの「-の変化」が起きていて、とくに、そのうち2棟の改築、4棟の新築が、風景保全に逆行する工事として行われている。1992年以降の様々な動きが歴史的町並みを活かした町づくりを標榜しているにも関わらず、個々の住民による建築工事が逆の結果となっているのは、風景保全の取り組みで、地元住民が中心的役割を果たしていないことに結びつけて考えられる。

最後に、以上から次のような仮説が推論される。い) 本研究が対象とした北村山の地域圏では、強制力のない助成金支給という方法でも、風景保全のルールが機能する可能性がある。ろ) 住民の主体的な取り組みの有無で、数年の間でも、歴史的風景の保全には大きな差異の生じる可能性がある。は) 山間部の農村集落は、買物、交通の便が良くても人口減少が進みつつある。に) このような集落の歴史的風景は、住民と学生の交流等で一時的に消失を止めることができるが、長期的には別の施策が必要となる。

今後の研究、実践のなかで確認を試みたい。

参考文献と注

- 1) 温井亨 (1998) : 尾花沢市「銀山温泉家並保存条例」の12年間の成果に関する研究 : ランドスケープ研究 61(5), 749-752
- 2) 温井亨 (1999) : 村山市上五十沢集落の風景とその保全継承に関する研究 : ランドスケープ研究 62(5), 721-726

- 3) 温井亨 (2000) : 集落の風景をまもる一山形県村山市上五十沢集落での活動から : ランドスケープ研究 63(3), 199-201
- 4) 温井亨 (2000) : 山形県大石田町における歴史的町並みを保全した町づくりに関する研究 : ランドスケープ研究 63(5), 739-742
- 5) 温井亨 (2001) : 生活・生業の場としての歴

- 史的風景保全の研究史に関する考察 : ランドスケープ研究 64(5), 457-460
- 6) この考えは、県内の金山町、西川町が行っている住宅助成事業に共通する。
- 7) 大石田町生涯教育センター (1999) : 平成10年度大石田町民大学 (大石田学の創造) 講義録 : 大石田町, 156-157

Summary : The aim of this study is to seek how to conserve historical landscapes by means of surveying the recent five years' activities at three areas, Ginza spa, Kami-isazawa settlement, and Core area of Ohishida Town, and comparing the change of their landscapes between 1996 and 2001. The results are as follows: 1) At Ginza spa the historical landscape was conserved by the townscape conservation rules which were carried out by the guild of the spa. 2) At Kami-isazawa settlement there were many activities for the consensus of the landscape conservation, but in the meanwhile the decrease of inhabitants is in progress. 3) At Core area of Ohishida Town the historical landscape was being lost rapidly because there was not the activities of inhabitants.